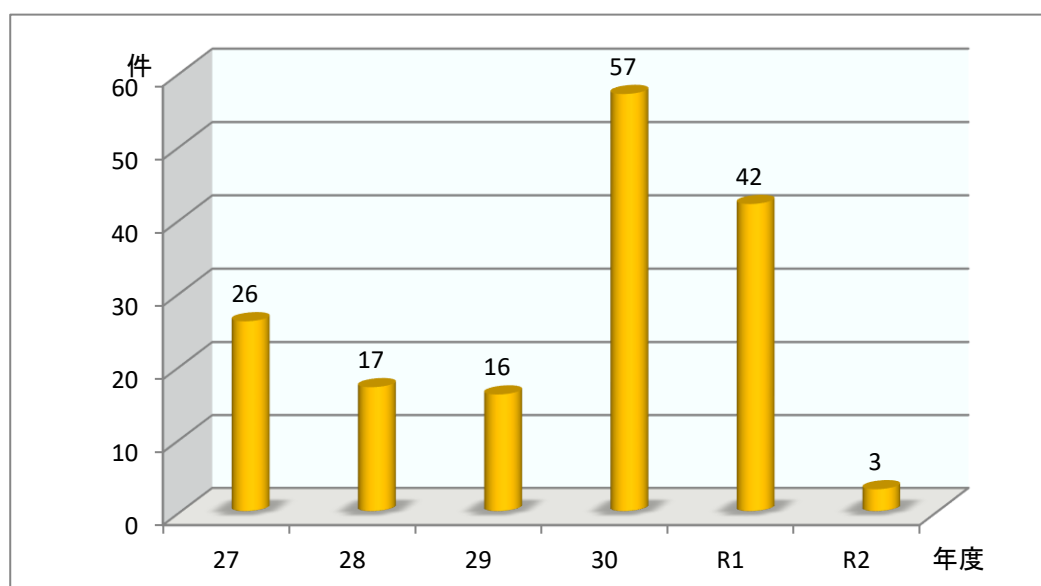


11整形外科手術における画像等手術支援(実物大臓器立体モデルによるもの)の実施件数

解説

実物大臓器立体モデルとは、患部のCT画像から作成した患者さんの骨格と同一の立体モデルであり、モデルを使用することにより、全てのスタッフが患部の正確なイメージをとらえることができ、適切な治療方針決定や術前の正確なシミュレーションが可能となります。これによって、難易度の高い手術において安全性および正確性が向上し、治療成績の向上が期待できます。

実績



自己点検評価

実物大臓器立体モデルを用いることで、手術のシミュレーション、学生教育、患者説明に活用でき、難易度の高い手術の安全性、正確性の向上に役立っている。

定義

整形外科において各年度1年間に実物大臓器立体モデルを用いて手術計画した症例数。
※平成29年度より追加した項目

算式

画像等手術支援加算(実物大臓器立体モデルによるもの)の算定件数